

パラリンピックおよびパラスポーツへの意識・態度に障がいの有無および居住地が与える影響

中村真博

1. 研究の背景

2021年8月24日から9月5日にかけて東京2020パラリンピック競技大会（以下、東京パラ大会）が開催され、2025年11月15日から26日には東京2025デフリンピックが開催されるなど、近年、東京においてパラスポーツの国際競技大会開催の動きが加速している。

パラリンピックをはじめとする国際競技大会の開催に大きな期待が寄せられるなか、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は「東京だけでなく、オールジャパン、そしてアジア・世界にポジティブな影響を与えていきたい」（東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、2019）というビジョンを掲げ、地域への波及を念頭に計画を立てていた。また、第3期スポーツ基本計画においても「東京大会のスポーツ・レガシーの継承・発展」（文部科学省、2022）に重きを置いた施策が提案されていたことから、東京パラ大会の開催から約4年経過した現在、どのような影響が残っているのか、東京のみならず「オールジャパン」に影響があったのかについて検討する必要があるといえよう。

さらに、パラスポーツに関連するデータとして、障がい者総合研究所（2018）が障がいのある人を対象に実施した調査によると、「東京オリンピック・パラリンピックによる障がいへの理解の促進は限定的と考える人は87%」であり、中村（2021）が「自分自身に障がいがある場合、パラスポーツへの意識はやや消極的になる」と指摘するように、障がいの有無によってもパラスポーツへの意識や期待・評価は異なるものと考えられる。

また、国際競技大会開催による影響の地域への波及に着目した先行研究として、パラリンピックが開催地の住民にもたらす社会的影響を明らかにした研究（Yamashita, 2021）がみられるものの、パラスポーツに着目した研究は多くない。一方、パラスポーツに限らず国際競技大会が地域住民に与える影響については、住民の幸福感に与える影響についての研究（Pfitzner, et al, 2016; Kim, et al, 2022）や、社会的インパクトについ

ての研究（富山ら，2021; Mair et al, 2021）など，多くの研究がなされている。

上述した先行研究はパラリンピックやパラスポーツが与える社会的影響について多様な視点から検討されている点において大変示唆的であるが，障がいの有無及び居住地という要素が掛け合わされることで生じる影響については明らかにされていない。

そこで本研究では，日本財団パラスポーツサポートセンターパラリンピック研究会が実施した「国内一般社会におけるパラスポーツに関する認知および関心に関する第4回調査」の二次分析を行い，パラリンピックへの意識・態度に障がいの有無および居住地が与える影響について明らかにすることを目的とする。

2. 調査概要

(1) 調査対象：

日本に在住する20～69歳の男女，5,000名。令和2年に実施された国勢調査の人口構成に基づき，性別および年代の割付（性別2区分，年代5区分）を行っている。

(2) 調査時期：2025年5月28日（水）～29日（木）

(3) 調査方法：株式会社クロス・マーケティングによるインターネット定量調査

(4) 調査項目（詳細は日本財団パラスポーツサポートセンターパラリンピック研究会ホームページを参照。URL：<http://para.tokyo/2025/07/post-35.html>）：

- ・スクリーニング項目（性別，年齢，居住地，結婚の有無，就労状況，子の有無，世帯年収，最終学歴）
- ・Q1 自身または身近な人の障がいの有無について
- ・Q2 パラスポーツ・スポーツに関連する言葉の認知度
- ・Q3 パラスポーツ・スポーツに関連する知識
- ・Q4 パラリンピック，スペシャルオリンピックス，デフリンピックに参加することができ障がい種
- ・Q5 日常的なスポーツ関連行動
- ・Q6 東京パラ大会開催後の現在の気持ち
- ・Q7 東京パラ大会を通じた国民や社会への影響
- ・Q8 パラスポーツに関連する経験
- ・Q9 パラスポーツ・スポーツに関して今後行ってみたいこと

パラリンピックおよびパラスポーツへの意識・態度に障がいの有無および居住地が与える影響

- ・ Q10 障がい者や性的マイノリティなどとの共生に関する気持ち
- ・ Q11 政治信条

(5) 分析方法：

調査項目の中から、パラリンピックへの意識・態度に関連する項目である「Q6：東京パラ大会開催後の現在の気持ち」「Q7：東京パラ大会を通じた国民や社会への影響」「Q9：パラスポーツ・スポーツに関して今後行ってみたいこと」を従属変数とし、「障がいの有無」「居住地」を独立変数とする二元配置分散分析を行った（図1）。

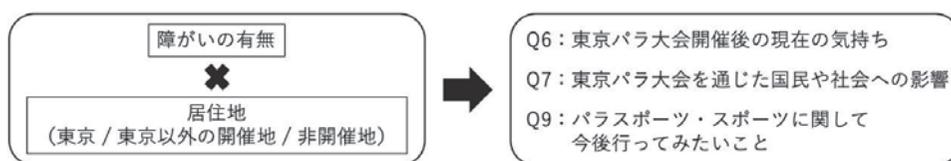


図1 二次分析の関連図

「障がいの有無」については「Q1-1 自分自身に障がいがある」に「はい」と回答した人（n=437）を「障がいのある人」、 「いいえ」と回答した人（n=4,563）を「障がいのない人」と分類している。また、「居住地」については東京パラ大会の大会会場である「東京」および「東京以外で競技が実施された開催県（埼玉・千葉・静岡）」と「非開催地」の3つに分類している。

なお、有意な主効果または交互作用が認められた場合には、事後検定としてHolm法による多重比較を行った。また、データの分析には清水（2016）が開発した統計解析プログラムHAD ver.18.010を使用し、統計学的有意水準は全て5%に設定した。

3. 結果と考察

3-1. 「Q6：東京パラ大会開催後の現在の気持ち」と障がいの有無および居住地

Q6は「東京2020パラリンピック大会を振り返り、現在のあなたのお気持ちに最も近いものをそれぞれお選びください」という質問に対し、4つの項目が用意されている。その4項目は「Q6-1 私自身にとって開催されてよかった」「Q6-2 障がいがある人にとって開催されてよかった」「Q6-3 社会にとって開催されてよかった」「Q6-4 将来世代にとって開催されてよかった」である。回答者はそれぞれの項目に対し、「1.

全くそう思わない」から「5. そう思う」の5件法で回答している。

以上の項目について、障がいの有無と居住地を要因とした二元配置分散分析を実施した(表1)。

表1 「Q6：東京パラ大会開催後の現在の気持ち」と「障がいの有無」「居住地」の二元配置分散分析結果

質問項目	居住地	障がいの有無			障がいの有無の主効果			居住地の主効果			多重比較		
		有(n=437)		無(n=4563)		F値	偏 η^2	F値	偏 η^2	F値	偏 η^2	F値	偏 η^2
		平均	標準誤差	平均	標準誤差								
私自身にとって開催されてよかった	A. 東京	2.67	0.08	2.47	0.16	2.89	0.05	12.96***	.003	3.29*	.001	2.37	.001
	B. 東京以外の開催地	2.90	0.07	2.75	0.13	3.04	0.04	有<無		A < C			
	C. 非開催地	2.90	0.03	2.85	0.06	2.95	0.02						
障がいがある人にとって開催されてよかった	A. 東京	3.31	0.09	3.14	0.17	3.48	0.05	16.60***	.003	8.08***	.003	3.85*	.002
	B. 東京以外の開催地	3.31	0.07	3.05	0.14	3.58	0.05	有<無		A, B < C		B : 有<無	
	C. 非開催地	3.57	0.03	3.52	0.06	3.63	0.02						
社会にとっ開催されてよかった	A. 東京	3.27	0.09	3.30	0.17	3.25	0.05	5.46*	.001	4.02*	.002	4.42*	.002
	B. 東京以外の開催地	3.22	0.07	2.95	0.14	3.48	0.04	有<無		B < C		B : 有<無	
	C. 非開催地	3.42	0.03	3.38	0.06	3.46	0.02						
将来世代にとって開催されてよかった	A. 東京	3.24	0.09	3.20	0.17	3.28	0.05	9.61**	.002	5.28**	.002	5.04**	.002
	B. 東京以外の開催地	3.17	0.07	2.88	0.14	3.46	0.04	有<無		B < C		B : 有<無	
	C. 非開催地	3.40	0.03	3.36	0.06	3.44	0.02						

*p < .05, **p < .01, ***p < .001

まず、「Q 6-1 私自身にとって開催されてよかった」に関して、障がいの有無の主効果 ($F = 12.96, p < .001$) および居住地の主効果 ($F = 3.29, p < .05$) が有意であった。平均値は障がいのない人2.96に対し障がいのある人2.69 (平均差=0.27), 非開催地在住者2.90に対し東京在住者2.67 (平均差=0.23) であった。

次に、「Q 6-2 障がいがある人にとって開催されてよかった」に関して、障がいの有無の主効果 ($F = 16.60, p < .001$) および居住地の主効果 ($F = 8.08, p < .001$) が有意であった。平均値は障がいのない人3.56に対し障がいのある人3.24 (平均差=0.32), 非開催地在住者3.57に対し東京在住者および開催地在住者3.31 (平均差=0.26) であった。また、障がいの有無と居住地の交互作用 ($F = 3.85, p < .05$) が確認され、「東京以外の開催地」において障がいのある人 (平均=3.05), 障がいのない人 (平均=3.58) となり、障がいのある人よりも障がいのない人の方が有意に高かった。

また、「Q 6-3 社会にとって開催されてよかった」に関して、障がいの有無の主効果 ($F = 5.46, p < .05$) および居住地の主効果 ($F = 4.02, p < .05$) が有意であった。平均値は障がいのない人3.40に対し障がいのある人3.21 (平均差=0.19), 非開催地在住者3.42に対し東京以外の開催地在住者3.22 (平均差=0.20) であった。また、障がいの有無と居住地の交互作用 ($F = 4.42, p < .05$) が確認され、「東京以外の開催地」在住者において障がいのある人 (平均=2.95), 障がいのない人 (平均=3.48) となり、障がいのある人よりも障がいのない人の方が有意に高かった。

さらには、「Q 6-4 将来世代にとって開催されてよかった」に関して、障がいの有無の主効果 ($F = 9.61, p < .01$) および居住地の主効果 ($F = 5.28, p < .01$) が有意であった。平均値は障がいのない人3.39に対し障がいのある人3.15 (平均差=0.24), 非開催地在住者3.40に対し東京以外の開催地在住者3.17 (平均差=0.23) であった。また、障がいの有無と居住地の交互作用 ($F = 5.04, p < .01$) が確認され、「東京以外の開催地」在住者において障がいのある人 (平均=2.88), 障がいのない人 (平均=3.46) となり、障がいのある人よりも障がいのない人の方が有意に高かった。

以上の結果から、東京パラ大会開催後の現在において、障がいのある人よりも障がいのない人の方が東京パラ大会に対してポジティブな気持ちを有していることが示唆された。また、東京在住者および東京以外の開催地在住者よりも非開催地在住者の方が東京パラ大会に対してポジティブな気持ちを有していることが示唆された。なかでも、東京以外の開催地在住者においては特に障がいのある人よりも障がいのない人の方が東京パラ大会に対してポジティブな気持ちを有していることが示唆された。

3-2. 「Q 7：東京パラ大会を通じた国民や社会への影響」と障がいの有無および居住地

Q 7は「2021年に開催された東京パラリンピックを通じて、国民や社会にどのような影響が生じたと思いますか。あなたのお気持ちに最も近いものをそれぞれお選びください」という質問に対し、以下の25個の項目が用意されている。

- ・ Q 7-1 国民が自分の国を誇りに思った
- ・ Q 7-2 国民一人ひとりが幸せを感じた
- ・ Q 7-3 開催国の国民として、人々が一体感を感じた
- ・ Q 7-4 公共交通機関や施設等のバリアフリー化が進んだ
- ・ Q 7-5 障がいのある人の雇用が進んだ
- ・ Q 7-6 障がいのある人の権利を守る法律の整備が進んだ
- ・ Q 7-7 人々の共生社会への関心が高まった
- ・ Q 7-8 人々が障がいに関して学ぶ機会が増えた
- ・ Q 7-9 障がいのある人や障がい自体に対して、人々の理解が深まった
- ・ Q 7-10 障がいのある人がスポーツをしやすい環境が整った
- ・ Q 7-11 障がいのある人がスポーツを観戦しやすい環境が整った
- ・ Q 7-12 障がいのある人とない人が一緒にスポーツができる環境が整った
- ・ Q 7-13 障がいのある人のスポーツに取り組む意欲が高まった
- ・ Q 7-14 人々のパラスポーツに対する興味、関心が高まった
- ・ Q 7-15 パラスポーツの競技力が向上した
- ・ Q 7-16 パラスポーツやパラアスリートのメディア露出が進んだ
- ・ Q 7-17 パラスポーツが、健常者のスポーツと同じように社会で扱われるようになった
- ・ Q 7-18 パラアスリートが、健常者のアスリートと同じように社会で扱われるようになった
- ・ Q 7-19 障がいのある人に対し、パラアスリートと同じように頑張ることを求める風潮が広がった
- ・ Q 7-20 一般の障がいのある人に比べ、パラアスリートが優遇されるようになった
- ・ Q 7-21 障がいのある人が、パラアスリートに対して引け目を感じるようになった
- ・ Q 7-22 優先すべき障がい福祉政策が後回しになった
- ・ Q 7-23 パラスポーツにおいて過度な勝利至上主義が助長された

パラリンピックおよびパラスポーツへの意識・態度に障がいの有無および居住地が与える影響

- ・ Q 7-24 一般の障がいのある人を対象としたスポーツ振興が阻害された
- ・ Q 7-25 パラスポーツにおいてドーピングや八百長等の不正行為が引き起こされた

回答者はそれぞれの項目に対し、「1. 全くそう思わない」から「5. そう思う」の5件法で回答している。なお、「Q 7-19」から「Q 7-25」についてはネガティブな意味を有する項目となっているため、分析に際しては数値を逆転させることで他の項目と同様に平均値が高いほどポジティブな回答を意味するよう処理している。

以上の項目について、障がいの有無と居住地を要因とした二元配置分散分析を実施した（表2～5）。

まず、障がいの有無に着目すると、「Q 7-19 障がいのある人に対し、パラアスリートと同じように頑張ることを求める風潮が広がった」「Q 7-22 優先すべき障がい福祉政策が後回しになった」「Q 7-25 パラスポーツにおいてドーピングや八百長等の不正行為が引き起こされた」を除くすべての項目において障がいの有無の主効果が有意であった。「Q 7-1 からQ 7-18」においては、障がいのない人よりも障がいのある人の方が平均値が有意に高かった。一方、「Q 7-20, 21, 23, 24」においては、障がいのある人よりも障がいのない人の方が平均値が有意に高かった。

次に、居住地に着目すると、「Q 7-14, 15, 18, 21」において東京在住者よりも非開催地在住者の方が平均値が有意に高かった。また、「Q 7-2, 3」において東京以外の開催地在住者よりも非開催地在住者の方が平均値が有意に高かった。さらに、「Q 7-9, 17」において東京在住者および東京以外の開催地在住者よりも非開催地在住者の方が平均値が有意に高かった。

さらには、「Q 7-1, 2, 14, 17, 18, 21, 24」において障がいの有無と居住地の交互作用が確認された。「東京」在住者において障がいのない人よりも障がいのある人の方が有意に高かったのは「Q 7-21」である。次に「東京以外の開催地」在住者において障がいのある人よりも障がいのない人の方が有意に高かったのは「Q 7-1, 2」である。また「東京」在住者および「東京以外の開催地」在住者において障がいのある人よりも障がいのない人の方が有意に高かったのは「Q 7-14, 17, 18」である。さらに「東京」在住者および「東京以外の開催地」在住者において障がいのない人よりも障がいのある人の方が有意に高かったのは「Q 7-24」である。

以上の結果から、東京パラ大会を通じた国民や社会への影響について、障がいのある人よりも障がいのない人の方がポジティブに捉え、障がいのある人は批判的に評価している傾向が示唆された。また、東京在住者および東京以外の開催地在住者よりも非開催地在住者の方が、東京パラ大会を通じた国民や社会への影響についてポジティブな気持

表2 「Q7：東京パラ大会を通じた国民や社会への影響」と「障がいの有無」「居住地」の二元配置分散分析結果①

質問項目	居住地	障がいの有無 有 (n = 437)			障がいの有無 無 (n = 4563)			居住地の 主効果			多重比較		
		平均	標準 誤差	標準 誤差	平均	標準 誤差	標準 誤差	F 値	偏η ²	F 値	偏η ²	F 値	偏η ²
国民が自分の国を誇りに思った	A. 東京	2.86	0.07	0.14	2.82	0.07	0.04	8.34**	.002	2.99	.001	3.80*	.002
	B. 東京以外の開催地	2.85	0.06	0.12	2.64	0.06	0.04	有<無				B : 有<無	
	C. 非開催地	2.99	0.03	0.05	2.96	0.03	0.02						
国民一人ひとりが幸せを感じた	A. 東京	2.73	0.07	0.14	2.64	0.07	0.04	12.31***	.002	5.12**	.002	5.31**	.002
	B. 東京以外の開催地	2.69	0.06	0.12	2.45	0.06	0.04	有<無				B : 有<無	
	C. 非開催地	2.87	0.03	0.05	2.85	0.03	0.02						
開催国の国民として、人々が一体感を感じた	A. 東京	2.88	0.07	0.14	2.84	0.07	0.04	5.83*	.001	3.90*	.002	2.51	.001
	B. 東京以外の開催地	2.81	0.06	0.12	2.63	0.06	0.04	有<無				B < C	
	C. 非開催地	2.98	0.03	0.05	2.95	0.03	0.02						
公共交通機関や施設等のバリアフリー化が進んだ	A. 東京	2.89	0.07	0.14	2.77	0.07	0.04	10.04**	.002	1.92	.001	1.86	.001
	B. 東京以外の開催地	2.94	0.06	0.12	2.78	0.06	0.04	有<無					
	C. 非開催地	3.02	0.03	0.05	2.98	0.03	0.02						
障がいのある人の雇用が進んだ	A. 東京	2.74	0.07	0.13	2.59	0.07	0.04	14.62***	.003	1.31	.001	0.63	0.000
	B. 東京以外の開催地	2.82	0.06	0.11	2.69	0.06	0.04	有<無					
	C. 非開催地	2.86	0.03	0.05	2.78	0.03	0.02						
障がいのある人の権利を守る法律の整備が進んだ	A. 東京	2.83	0.07	0.13	2.77	0.07	0.04	6.38*	.001	1.42	.001	1.14	0.000
	B. 東京以外の開催地	2.78	0.06	0.11	2.64	0.06	0.03	有<無					
	C. 非開催地	2.88	0.03	0.05	2.84	0.03	0.02						

東京パラ大会を通じた国民や社会への影響

表3 「Q7：東京パラ大会を通じた国民や社会への影響」と「障がいの有無」「居住地」の二元配置分散分析結果②

質問項目	居住地	有 (n = 437)			障がいの有無 無 (n = 4563)			障がいの有無 の主効果			居住地の 主効果			多重比較		
		平均	標準 誤差	平均	標準 誤差	平均	標準 誤差	F 値	偏η ²	F 値	偏η ²	F 値	偏η ²	F 値	偏η ²	
人々の共生社会への関 心が高まった	A. 東京	2.97	0.07	2.93	0.14	3.01	0.04	8.48**	.002	1.74	.001	1.76	.001			
	B. 東京以外の開催地	2.90	0.06	2.72	0.11	3.08	0.04	有<無								
	C. 非開催地	3.02	0.03	2.95	0.05	3.08	0.02									
人々が障がいに関して 学ぶ機会が増えた	A. 東京	2.96	0.07	2.82	0.14	3.10	0.04	13.50***	.003	2.50	.001	1.50	.001			
	B. 東京以外の開催地	3.01	0.06	2.84	0.12	3.17	0.04	有<無								
	C. 非開催地	3.11	0.03	3.05	0.05	3.17	0.02									
障がいのある人や障が い自体に対して、人々 の理解が深まった	A. 東京	2.91	0.07	2.75	0.14	3.07	0.04	16.90***	.003	5.52**	.002	2.78	.001			
	B. 東京以外の開催地	2.91	0.06	2.72	0.12	3.10	0.04	有<無								
	C. 非開催地	3.09	0.03	3.04	0.05	3.14	0.02									
障がいのある人がス ポーツをしやすい環境 が整った	A. 東京	2.97	0.07	2.91	0.14	3.04	0.04	4.92*	.001	2.29	.001	0.80	0.000			
	B. 東京以外の開催地	2.96	0.06	2.84	0.12	3.08	0.04	有<無								
	C. 非開催地	3.08	0.03	3.05	0.05	3.12	0.02									
障がいのある人がス ポーツを観戦しやすい 環境が整った	A. 東京	2.85	0.07	2.68	0.13	3.02	0.04	11.76**	.002	2.90	.001	1.43	.001			
	B. 東京以外の開催地	2.97	0.06	2.86	0.11	3.07	0.04	有<無								
	C. 非開催地	3.02	0.03	2.97	0.05	3.08	0.02									
障がいのある人とな い人が一緒にスポ ーツができる環 境が整った	A. 東京	2.81	0.07	2.70	0.14	2.91	0.04	6.05*	.001	2.54	.001	1.74	.001			
	B. 東京以外の開催地	2.84	0.06	2.72	0.11	2.96	0.04	有<無								
	C. 非開催地	2.94	0.03	2.93	0.05	2.96	0.02									
障がいのある人のス ポーツに取り組 む意欲が高まった	A. 東京	3.12	0.07	3.14	0.14	3.11	0.04	6.40*	.001	1.92	.001	2.38	.001			
	B. 東京以外の開催地	2.98	0.06	2.80	0.12	3.17	0.04	有<無								
	C. 非開催地	3.11	0.03	3.03	0.05	3.18	0.02									

東京パラ大会を通じた国民や社会への影響

表4 「Q7：東京パラ大会を通じた国民や社会への影響」と「障がいの有無」「居住地」の二元配置分散分析結果③

質問項目	居住地			障がいの有無 有 (n = 437)			障がいの有無 無 (n = 4563)			居住地の 主効果			多重比較			
	平均	標準 誤差		平均	標準 誤差		平均	標準 誤差		F 値	偏η ²	F 値	偏η ²	F 値	偏η ²	
人々のパラスポーツに 対する興味、関心が高 まった	A. 東京	2.88	0.07	2.70	0.14	3.06	0.04	16.74***	.003	5.02**	.002	3.01*	.001			
	B. 東京以外の開催地	2.97	0.06	2.78	0.12	3.15	0.04	有<無		A < C		A, B : 有<無				
	C. 非開催地	3.10	0.03	3.05	0.05	3.15	0.02									
パラスポーツの競技力 が向上した	A. 東京	3.00	0.07	2.86	0.14	3.14	0.04	15.45***	.003	4.18*	.002	2.85	.001			
	B. 東京以外の開催地	3.06	0.06	2.86	0.12	3.27	0.04	有<無		A < C						
	C. 非開催地	3.19	0.03	3.14	0.05	3.24	0.02									
パラスポーツやパラア スリートのメデイア露 出が進んだ	A. 東京	2.99	0.08	2.91	0.14	3.08	0.04	11.96**	.002	2.58	.001	1.56	.001			
	B. 東京以外の開催地	3.02	0.06	2.83	0.12	3.22	0.04	有<無								
	C. 非開催地	3.14	0.03	3.06	0.05	3.21	0.02									
パラスポーツが、健常 者のスポーツと同じよ うに社会で扱われるよ うになった	A. 東京	2.75	0.07	2.57	0.14	2.93	0.04	15.73***	.003	7.17**	.003	3.27*	.001			
	B. 東京以外の開催地	2.81	0.06	2.64	0.12	2.98	0.04	有<無		A, B < C		A, B : 有<無				
	C. 非開催地	2.99	0.03	2.95	0.05	3.02	0.02									
パラアスリートが、健 常者のアスリートと同 じように社会で扱われ るようになった	A. 東京	2.72	0.07	2.52	0.14	2.92	0.04	19.15***	.004	4.72**	.002	3.37*	.001			
	B. 東京以外の開催地	2.85	0.06	2.67	0.11	3.02	0.04	有<無		A < C		A, B : 有<無				
	C. 非開催地	2.94	0.03	2.89	0.05	2.99	0.02									
障がいのある人に対し、 パラアスリートと同じ ように頑張ることを求 める風潮が広がった	A. 東京	3.19	0.07	3.23	0.14	3.15	0.04	2.90	.001	1.07	0.000	0.68	0.000			
	B. 東京以外の開催地	3.19	0.06	3.30	0.12	3.09	0.04									
	C. 非開催地	3.11	0.03	3.14	0.05	3.09	0.02									

東京パラ大会を通じた国民や社会への影響

表5 「Q7：東京パラ大会を通じた国民や社会への影響」と「障がいの有無」「居住地」の二元配置分散分析結果④

質問項目	居住地	障がいの有無 有 (n = 437)			障がいの有無 無 (n = 4563)			居住地の 主効果			多重比較		
		平均	標準 誤差	平均	標準 誤差	平均	標準 誤差	F 値	偏η ²	F 値	偏η ²	F 値	偏η ²
一般の障がいのある人 に比べ、パラアスリートが 優遇されるようになった	A. 東京	3.36	0.07	3.52	0.13	3.20	0.04	11.96**	.002	2.09	.001	1.64	.001
	B. 東京以外の開催地	3.29	0.06	3.41	0.11	3.17	0.03	無<有					
	C. 非開催地	3.22	0.03	3.27	0.05	3.18	0.02						
障がいのある人が、パ ラアスリートに対して 引け目を感じるように なった	A. 東京	3.58	0.07	3.77	0.14	3.39	0.04	5.75*	.001	3.69*	.001	3.61*	.001
	B. 東京以外の開催地	3.41	0.06	3.47	0.11	3.36	0.04	無<有					
	C. 非開催地	3.38	0.03	3.36	0.05	3.39	0.02						
優先すべき障がい福祉 政策が後回しになった	A. 東京	3.29	0.07	3.34	0.13	3.25	0.04	1.69	0.000	1.59	.001	1.28	.001
	B. 東京以外の開催地	3.31	0.06	3.39	0.11	3.23	0.03						
	C. 非開催地	3.22	0.02	3.21	0.05	3.23	0.01						
パラスポーツにおいて 過度な勝利至上主義が 助長された	A. 東京	3.34	0.07	3.43	0.13	3.25	0.04	3.98*	.001	1.27	.001	1.53	.001
	B. 東京以外の開催地	3.33	0.06	3.42	0.11	3.24	0.04	無<有					
	C. 非開催地	3.25	0.03	3.26	0.05	3.25	0.02						
一般の障がいのある人 を対象としたスポーツ 振興が阻害された	A. 東京	3.54	0.07	3.73	0.14	3.35	0.04	10.53**	.002	2.69	.001	4.06*	.002
	B. 東京以外の開催地	3.47	0.06	3.59	0.11	3.35	0.04	無<有					
	C. 非開催地	3.39	0.03	3.39	0.05	3.38	0.02						
パラスポーツにおいて ドーピングや八百長等 の不正行為が引き起こ された	A. 東京	3.46	0.07	3.57	0.14	3.36	0.04	2.63	.001	0.75	0.000	1.26	.001
	B. 東京以外の開催地	3.43	0.06	3.48	0.11	3.38	0.04						
	C. 非開催地	3.38	0.03	3.38	0.05	3.39	0.02						

*p < .05, **p < .01, ***p < .001

東京パラ大会を通じた国民や社会への影響

ちを有していることが示唆された。さらには、居住地が同じであっても障がいのない人がポジティブに評価する一方、障がいのある人はネガティブに評価しており、評価に乖離があることが示唆された。

3-3. 「Q 9：パラスポーツ・スポーツに関して今後行ってみたいこと」と障がいの有無および居住地

Q 9は「以下のことを、あなたは今後行ってみたいと思いますか。あなたのお気持ちに最も近いものをそれぞれお選びください」という質問に対し、以下の15個の項目が用意されている。

- ・ Q 9-1 日本国内で開催されるパラスポーツの試合を、会場で直接観戦
- ・ Q 9-2 日本国内で開催されるパラスポーツの試合を、テレビやスマートフォン、タブレット等で観戦
- ・ Q 9-3 パラスポーツ体験会への参加
- ・ Q 9-4 パラスポーツ関連のボランティア活動
- ・ Q 9-5 福祉関連のボランティア活動
- ・ Q 9-6 バラアスリートが登壇する講演会等のイベントへの参加
- ・ Q 9-7 障がいに関する学習（手話・点字の学習、車椅子体験等）
- ・ Q 9-8 ロサンゼルス2028パラリンピックを現地で直接観戦
- ・ Q 9-9 ロサンゼルス2028パラリンピックをテレビやスマートフォン、タブレット等で観戦
- ・ Q 9-10 ロサンゼルス2028オリンピックを現地で直接観戦
- ・ Q 9-11 ロサンゼルス2028オリンピックをテレビやスマートフォン、タブレット等で観戦
- ・ Q 9-12 東京2025デフリンピックを会場で直接観戦
- ・ Q 9-13 東京2025デフリンピックをテレビやスマートフォン、タブレット等で観戦
- ・ Q 9-14 東京2025世界陸上を会場で直接観戦
- ・ Q 9-15 東京2025世界陸上をテレビやスマートフォン、タブレット等で観戦

回答者はそれぞれの項目に対し、「1. 全くそう思わない」から「5. そう思う」の5件法で回答している。

以上の項目について、障がいの有無と居住地を要因とした二元配置分散分析を実施した結果、いずれの項目においても有意な差はみられなかった（表6～8）。

表6 「Q9：パラスポーツ・スポーツに関して今後行ってみたいこと」と「障がいの有無」「居住地」の二元配置分散分析結果①

質問項目	居住地	障がいの有無		障がいの有無の主効果		居住地の主効果		多重比較					
		有 (n=437)	無 (n=4563)	F 値	偏 η^2	F 値	偏 η^2	F 値	偏 η^2				
		平均	標準誤差	標準誤差	標準誤差	標準誤差	標準誤差	標準誤差	標準誤差				
日本国内で開催されるパラスポーツの試合を、会場で直接観戦	A. 東京	2.28	0.08	2.20	0.16	2.35	0.05	1.30	0.000	0.34	0.000	0.14	0.000
	B. 東京以外の開催地	2.37	0.07	2.34	0.13	2.39	0.04						
	C. 非開催地	2.32	0.03	2.29	0.06	2.35	0.02						
日本国内で開催されるパラスポーツの試合を、テレビやスマートフォン、タブレット等で観戦	A. 東京	2.40	0.09	2.30	0.17	2.51	0.05	2.00	0.000	1.22	0.000	0.33	0.000
	B. 東京以外の開催地	2.58	0.08	2.55	0.14	2.62	0.05						
	C. 非開催地	2.53	0.03	2.50	0.06	2.55	0.02						
パラスポーツ体験会への参加	A. 東京	2.20	0.08	2.09	0.16	2.30	0.04	1.47	0.000	0.64	0.000	0.68	0.000
	B. 東京以外の開催地	2.32	0.07	2.30	0.13	2.34	0.04						
	C. 非開催地	2.26	0.03	2.25	0.06	2.27	0.02						
パラスポーツ関連のボランティア活動	A. 東京	2.21	0.08	2.07	0.16	2.35	0.04	1.00	0.000	1.40	0.001	1.54	0.001
	B. 東京以外の開催地	2.39	0.07	2.42	0.13	2.35	0.04						
	C. 非開催地	2.32	0.03	2.31	0.06	2.32	0.02						
福祉関連のボランティア活動	A. 東京	2.32	0.08	2.23	0.16	2.41	0.04	0.17	0.000	1.10	0.000	0.93	0.000
	B. 東京以外の開催地	2.48	0.07	2.50	0.13	2.46	0.04						
	C. 非開催地	2.42	0.03	2.45	0.06	2.40	0.02						

パラスポーツ・スポーツに関して今後行ってみたいこと

表7 「Q9：パラスポーツ・スポーツに関して今後行ってみたいこと」と「障がいの有無」「居住地」の二元配置分散分析結果②

質問項目	居住地	障がいの有無			障がいの有無の主効果			居住地の主効果			多重比較		
		平均	標準誤差	無 (n=437)	有 (n=4563)	F 値	偏 η^2	F 値	偏 η^2	F 値	偏 η^2	F 値	偏 η^2
				平均	標準誤差								
パラスリートの登壇する講演会等のイベントへの参加	A. 東京	2.29	0.08	2.23	0.15	2.35	0.04	1.95	0.000	0.04	0.000	0.47	0.000
	B. 東京以外の開催地	2.31	0.07	2.23	0.13	2.39	0.04						
	C. 非開催地	2.29	0.03	2.28	0.06	2.31	0.02						
障がいの有無に関する学習（手話・点字の学習、車椅子体験等）	A. 東京	2.45	0.08	2.48	0.16	2.43	0.05	0.54	0.000	0.85	0.000	0.18	0.000
	B. 東京以外の開催地	2.57	0.07	2.62	0.14	2.52	0.04						
	C. 非開催地	2.48	0.03	2.48	0.06	2.47	0.02						
ロサンゼルス2028パラリンピックを現地で直接観戦	A. 東京	2.09	0.08	2.05	0.16	2.13	0.04	0.02	0.000	0.06	0.000	0.53	0.000
	B. 東京以外の開催地	2.10	0.07	2.09	0.13	2.11	0.04						
	C. 非開催地	2.08	0.03	2.12	0.06	2.04	0.02						
ロサンゼルス2028パラリンピックをテレビやスマートフォン、タブレット等で観戦	A. 東京	2.39	0.09	2.32	0.18	2.47	0.05	1.25	0.000	0.41	0.000	0.47	0.000
	B. 東京以外の開催地	2.50	0.08	2.44	0.15	2.56	0.05						
	C. 非開催地	2.46	0.03	2.46	0.06	2.46	0.02						
ロサンゼルス2028オリンピックを現地で直接観戦	A. 東京	2.14	0.08	2.09	0.16	2.19	0.04	0.21	0.000	0.93	0.000	0.26	0.000
	B. 東京以外の開催地	2.14	0.07	2.13	0.13	2.15	0.04						
	C. 非開催地	2.06	0.03	2.07	0.06	2.04	0.02						

パラスポーツ・スポーツに関して今後行ってみたいこと

表8 「Q9：パラスポーツ・スポーツに関して今後行ってみたいこと」と「障がいの有無」「居住地」の二元配置分散分析結果③

質問項目	居住地	障がいの有無			障がいの有無の主効果			居住地の主効果			多重比較			
		平均	標準誤差	無 (n=437)	平均	標準誤差	無 (n=4563)	F 値	偏 η^2	F 値	偏 η^2	F 値	偏 η^2	
														標準誤差
ロサンゼルス2028オリンピックをテレビやスマートフォン、タブレット等で観戦	A. 東京	2.50	0.10	2.34	0.19	2.66	0.05	3.69	.001	0.000	0.29	0.000	1.10	0.000
	B. 東京以外の開催地	2.59	0.08	2.52	0.16	2.67	0.05							
	C. 非開催地	2.58	0.04	2.56	0.07	2.59	0.02							
東京2025デフリンピックを会場で直接観戦	A. 東京	2.21	0.08	2.18	0.16	2.23	0.04	0.45	0.000	0.55	0.000	0.98	0.000	
	B. 東京以外の開催地	2.15	0.07	2.08	0.13	2.23	0.04							
	C. 非開催地	2.12	0.03	2.15	0.06	2.09	0.02							
東京2025デフリンピックをテレビやスマートフォン、タブレット等で観戦	A. 東京	2.35	0.09	2.30	0.17	2.40	0.05	0.79	0.000	0.10	0.000	0.26	0.000	
	B. 東京以外の開催地	2.39	0.07	2.34	0.14	2.44	0.04							
	C. 非開催地	2.38	0.03	2.38	0.06	2.39	0.02							
東京2025世界陸上を会場で直接観戦	A. 東京	2.34	0.09	2.34	0.16	2.34	0.05	0.11	0.000	3.25	.001	0.03	0.000	
	B. 東京以外の開催地	2.33	0.07	2.34	0.14	2.31	0.04							
	C. 非開催地	2.17	0.03	2.19	0.06	2.15	0.02							
東京2025世界陸上をテレビやスマートフォン、タブレット等で観戦	A. 東京	2.63	0.09	2.64	0.18	2.62	0.05	0.53	0.000	0.19	0.000	0.18	0.000	
	B. 東京以外の開催地	2.60	0.08	2.53	0.15	2.66	0.05							
	C. 非開催地	2.57	0.03	2.53	0.07	2.61	0.02							

*p < .05, **p < .01, ***p < .001

以上の結果から、Q 6やQ 7のような東京パラ大会に対する評価については障がいの有無や居住地が影響を与えることが示唆されたが、東京パラ大会後の行動に対して障がいの有無や居住地は大きな影響を与えないことが示唆された。

4. まとめ

本稿では、パラリンピックへの意識・態度に障がいの有無および居住地が与える影響について明らかにすることを目的に、日本財団パラスポーツサポートセンターパラリンピック研究会が実施した「国内一般社会におけるパラスポーツに関する認知および関心に関する第4回調査」の二次分析を実施した。

分析の結果、東京パラ大会開催後の現在において、障がいのある人よりも障がいのない人の方が東京パラ大会に対してポジティブな気持ちを有していることが示唆された。また、東京在住者および東京以外の開催地在住者よりも非開催地在住者の方が、東京パラ大会に対してポジティブな気持ちを有していることが示唆された。なかでも、東京以外の開催地在住者においては特に障がいのある人よりも障がいのない人の方が、東京パラ大会に対してポジティブな気持ちを有していることが示唆された。

また、東京パラ大会を通じた国民や社会への影響について、障がいのある人よりも障がいのない人の方がポジティブに捉え、障がいのある人は批判的に評価している傾向が示唆された。また、東京在住者および東京以外の開催地在住者よりも非開催地在住者の方が、東京パラ大会を通じた国民や社会への影響についてポジティブな気持ちを有していることが示唆された。さらには、居住地が同じであっても障がいのない人がポジティブに評価する一方、障がいのある人はネガティブに評価しており、評価に乖離があることが示唆された。

さらには、パラスポーツ観戦をはじめとする東京パラ大会後の行動意欲に対して障がいの有無や居住地は大きな影響を与えないことが示唆された。

以上を踏まえると、障がいの有無や居住地はパラリンピックに関連する意識や態度には影響を与えるが、その後の行動にまでは大きな影響を与えないと考えられる。次に、障がいのある人や大会会場の近くに居住する人がパラリンピックを自分ごととして捉え、批判的な評価を行うのはある意味当然である。しかし、居住地が同じであっても障がいの有無によって評価に乖離がある点には注意が必要であろう。今後のパラスポーツ大会開催にあたっては、大会会場周辺に居住する障がいのない人のみならず、特に大会会場周辺に居住する障がいのある人も満足できるよう意識した大会運営を期待したい。そのためにも、大会運営の具体的施策を立案する段階から障がい当事者が参画するなど

の工夫が必要であろう。

なお、他の説明変数に着目した分析の実施や、東京パラ大会直後の2021年10月に実施した第3回調査との比較を実施することで、より深い考察を行うことができるかもしれない。今後の課題としたい。

【文献】

- 清水裕士 (2016) 「フリーの統計分析ソフト HAD：機能の紹介と統計学習・教育，研究実践における利用方法の提案」『メディア・情報・コミュニケーション研究』 1, 59-73.
- 障がい者総合研究所 (2018) 「オリンピック・パラリンピックへの意識調査」『障がい者総合研究所ホームページ』 2025年10月20日取得, <https://www.gp-sri.jp/report/detail032.html>
- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 (2019) 『東京2020アクション&レガシープラン2019 ～東京2020大会に参画しよう。そして、未来につなげよう。～』 2025年10月20日取得, <https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/special/q6pxblfucm1smalknuof.pdf>
- 富山浩三・紺田俊 (2021) 「国際的スポーツ大会による社会的インパクトが地域愛着に及ぼす影響」『大阪体育大学紀要』 52, 25-33.
- 中村真博 (2021) 「パラスポーツへの意識に影響を及ぼす要因に関する研究」『日本財団パラリンピックサポートセンターパラリンピック研究会紀要』 16, 17-32.
- 文部科学省 (2022) 『スポーツ基本計画』 2025年10月20日取得, https://www.mext.go.jp/sports/content/000021299_20220316_3.pdf
- Kim, J., & Han, J., & Kim, E., & Kim, C. (2022). Quality of Life Subjective Expectations and Exchange from Hosting Mega-Events. *Sustainability*, 14(17), 11079. <https://doi.org/10.3390/su141711079>
- Mair, J., & Chien, P. M., & Kelly, S. J., & Derrington, S. (2021). Social impacts of mega-events: a systematic narrative review and research agenda. *Journal of Sustainable Tourism*, 31, 538-560. <https://doi.org/10.1080/09669582.2020.1870989>
- Pfitzner, R., & Koenigstorfer, J. (2016). Quality of life of residents living in a city hosting mega-sport events: a longitudinal study. *BMC Public Health*, 16, 1102. <https://doi.org/10.1186/s12889-016-3777-3>
- Yamashita, Rei. (2021). Mega-Para-Sporting Event Social Impacts Perceived by Tokyo Residents: Comparison of Residents' Vitality. *Sustainability*, 13(16), 9311. <https://doi.org/10.3390/su13169311>

The Influence of Disability Status and Place of Residence on Attitudes Toward the Paralympic Games

NAKAMURA Masahiro

The purpose of this study is to clarify the influence of disability status and place of residence on awareness and attitudes toward the Paralympic Games. An online survey of 5,000 residents in Japan was conducted, and two-way analysis of variance was performed using “current feelings after the Tokyo 2020 Paralympic Games,” “the impact on the public and society,” and “future aspirations in parasports and sports” as dependent variables, with “disability status” and “place of residence” as independent factors.

The analysis indicated that respondents without disabilities evaluated the Tokyo Paralympic Games more positively than those with disabilities. In addition, individuals living in non-host cities showed more positive evaluations than those residing in Tokyo or other host cities. Notably, among residents of host cities outside Tokyo, those without disabilities rated the Games significantly more positively than those with disabilities.

Regarding the impact on the public and society of the Tokyo Paralympics, respondents without disabilities again held more positive views than people with disabilities. Residents of non-host cities also expressed more positive feelings compared with those living in Tokyo or other host cities. Moreover, even within the same residential area, people without disabilities held more positive evaluations, whereas those with disabilities tended to view the Games negatively, indicating a divergence in evaluations.

In contrast, disability status and place of residence exerted little influence on behavioral intentions related to parasports.